

## 実践事例3

## きずなとことば

西宮市立大社中学校第2学年

## 1 テーマ

きずなとことば

## 2 実践のねらい

メールなどの文字や、会話における話し言葉などによるコミュニケーションの難しさ、大切さに体験をとおして気づく。そして、一人一人の人権をより一層尊重する意識を高めるとともに、思いやりのある人と人とのつながり・きずなについて考える。

## 3 テーマ設定の理由

## (1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、学級数18（特別支援学級2クラス含む）、生徒数608人の学校である。大社中学校区は、5つの小学校区からなっており、それぞれの異なる地域の中から様々な家庭環境の生徒が集まっている。

2年生の生徒は、比較的落ち着いて生活し、行事では楽しく大いに盛り上がることのできる学年である。人に対してやさしい行動も多く見受けられるが、友達に対して冗談からではあるがきつい言葉をかけたり、人の気持ちを十分に考えない行動をとって友達間でのトラブルになったりといった事象も起きている。

特に携帯電話やパソコンは大変普及しており、生徒たちにとって生活の中でなくてはならないものになっている。しかし、使い方によっては、便利なものとなると同時に危険なものともなっている。2年生の生徒の中でも、友人間のメールや掲示板の活用におけるトラブルが起きている。

事前の携帯電話に関するアンケートでは、携帯電話を利用している生徒は全体の55%だった。利用の内容は1位が電話の通信（59%）、2位がメールの通信（55%）、3位が音楽の利用（27%）、その他インターネットによる情報の収集や、動画などとなっており、携帯電話の利用が多様化していることがわかる。

このように携帯電話の利用はさかんであり、メールや掲示板等におけるトラブルが頻繁に起こっていることから、生徒が携帯電話の便利な面と同時に携帯電話の危険な面も理解し、安全な携帯電話の使い方を学習することや言葉のやりとりの体験学習が必要であると考え、今回のテーマを設定した。

## (2) 指導のポイント

## 【感動の体験】

- ・携帯電話やインターネットがどのようなときに便利なのかを考えるとともに、人と人をつなぐ情報機器の素晴らしさを知らせる。
- ・相手の立場や心情を考えながらも自分の考えも伝えて生活することによって、お互いみんなが気持ちよく生活できることを、体験をとおして学習させる。

## 【感性を育む】

- ・携帯電話のメールや掲示板への書き込みなどによる問題点に気づかせる。
- ・何気ない一言、その一言の違いで「話が強調されてしまう」ことに気づかせる。そして、思いやりの心をもって対立を乗り越える学習をとおして、言葉の使い方について改めて考えさせる。
- ・インターネットの基本的な仕組みやそれを悪用した犯罪実態や人権を侵害しないための知識を身に付けさせ、いろいろな情報を扱う際に適切に判断し行動できるようにさせる。

## 【想像力の育成】

- ・携帯電話やインターネット上の文字情報がどのように伝わり、文字情報を受け取った人がどのように理解するかを考えさせる。
- ・インターネット上の行為は自他に大きな影響を及ぼすことを知り、責任ある言動とはどういうことかを考えさせる。
- ・相手の立場や心情を理解することや、自分の思いを伝えることの大切さを、実生活で起こりうる場面におけるロールプレイをとおして、理解させる。

## 4 事前

## (1) 先生の準備

- ・携帯電話やインターネットを利用することで生じるトラブルについて、学校生活や、家庭との情報交換、新聞等によるニュースをとおして、社会の状況をとらえる。
- ・携帯電話、インターネットに関する生徒アンケートを実施し、生徒の携帯電話やインターネット利用の実態を把握する。
- ・生徒の家庭環境を理解し、個別指導や家庭との連携など、十分な配慮をしておく。
- ・生徒同士の話し合い等のグループ活動に向けて仲間づくりをする。
- ・ふだんの学校生活の中で、生徒が不満を感じやすいロールプレイの場面設定を考える。

## (2) 教育課程上の位置づけ

- ・道徳
- ・総合的な学習の時間
- ・技術・家庭
- ・社会

## (3) 生徒たちの準備

- ・携帯電話やインターネットの利用状況を、あらためて自分自身で把握する。
- ・携帯電話やインターネットを利用することで生じるトラブルの体験や、人を傷つけたり傷つけられたりすることがあれば、そのときどのように感じたかを思い出す。
- ・ふだんの生活で、どのようなときにいやな思いをするかを考える。

## (4) 家庭・地域との連携

- ・携帯電話やインターネットによるトラブルの状況や、各家庭での子どもの利用状況を保護者と交流する機会を持ち、携帯電話やインターネットの望ましい利用方法について保護者とともに考えていく。
- ・学校での実践の内容を通信等で各家庭に伝える。また、PTA役員の方との話し合いや、保護者会等で、継続的に保護者と意見の交流を図る。

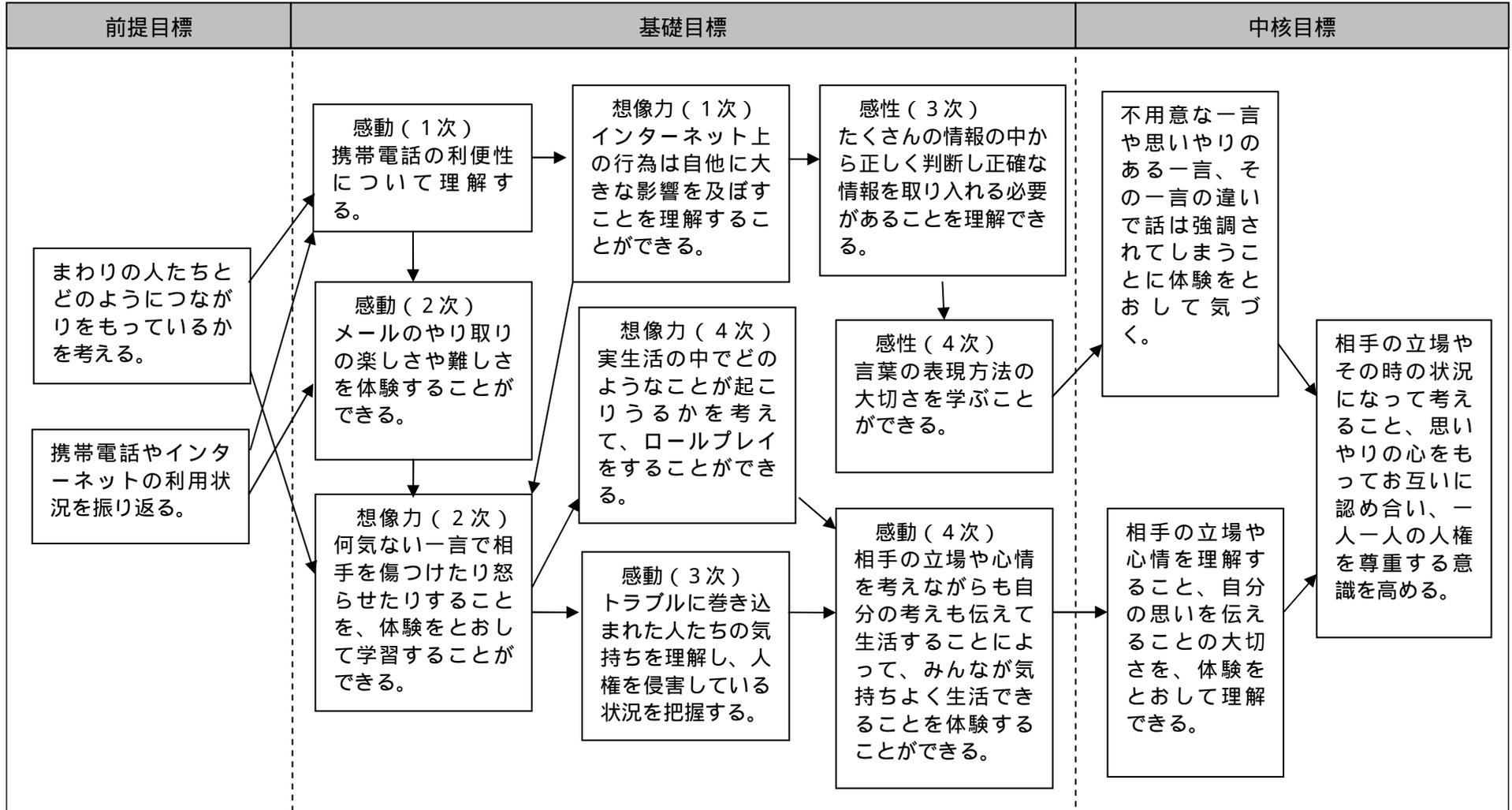
## 5 本校の実践の特色

- (1) 3年間をとおした「命の大切さを実感させる教育」の実施計画の作成及び実践。
- (2) 携帯電話の利便性と危険性に関する講演や、アンケート、DVD等をとおしての学習。
- (3) 教室における書き込みの疑似体験。
- (4) 自分の気持ちや考えを相手に伝え、相手のことも配慮するアサーティブな方法の学習。

## 6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	携帯電話、インターネットに関するアンケートに答える。	携帯電話やインターネットは非常に便利であることに気づくことができる。	携帯電話やインターネットの利用状況を振り返ることができる。	まわりの人たちとどのようにつながっているかを考えることができる。	
1次 (2時間)	読み物資料を用いて、学校生活で起こりうるメールによるトラブルについて学ぶ。 「ケータイ・インターネットの利便性と危険性」についてのビデオをみる。	携帯電話やインターネットの利便性について理解することができる。	携帯電話やインターネットを利用するには、特に責任ある言動が必要であることを理解できる。 メールのやり取りでどのように人を傷つけたり、トラブルになったりするのかを理解することができる。	インターネット上の行為は他に大きな影響を及ぼすことを理解することができる。 どうすれば携帯電話の危険性から逃れられるのかを考えることができる。	身近な生活における携帯電話やインターネットの使い方を振り返らせることができたか。
2次 (1時間)	メールや掲示板への書き込みの疑似体験をする。(フレーミング)	メールのやり取りの楽しさを体験することができる。	不用意な一言、思いやりのある一言、その一言の違いで「話が強調されてしまう」ことに体験をとおして気づく。	インターネットでは相手の顔が見えず、簡単にフレーム合戦が起こることが理解できる。	何気ない一言で相手を傷つけたり、怒らせたりすることを体験できるように支援することができたか。 知識として、書き込みに注意しないといけないと知っていてもついつい感情的になってしまうことに気づかせることができたか。
3次 (1時間)	「携帯電話の危険性について」の講演を聞く。	トラブルに巻き込まれた人たちの気持ちを理解し、人権を侵害している状況を把握することができる。	たくさんの情報の中から正しく判断し、正確な情報を取り入れる必要があることを理解することができる。	実際に起こっている事件やトラブルの話から携帯電話の危険性を理解することができる。	ふだんの生活の中でも、情報の取り扱いに注意を払わないといけないことに気づかせることができたか。
4次 (1時間)	自分を大切にしながら生きていくためのアサーショントレーニングをする。	相手の立場や心情を考えながらも自分の考えも伝えて生活することによって、みんなが気持ちよく生活できることを、体験をとおして学習することができる。	相手の立場や心情を理解すること、自分の思いを伝えることの大切さを理解することができる。 言葉の表現方法の大切さを学ぶことができる。	実生活でどのようなことが起こりうるかを想像しながら、ロールプレイをすることができる。	相手の立場やそのときの状況になって考えること、思いやりの心をもってお互いに認め合い、一人一人の人権を尊重することの大切さを考えさせることができたか。
事後	「きずなとことば」の学習をして考えたことを話し合う。	「きずなとことば」の学習の中で一番感動したことをまとめる。	「きずなとことば」の学習をとおして、感じたことを作文にする。	これからの生活をどのように送っていきたいかを考える。	

7 目標構造図



（凡例） 感性（1次）：「 」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

## 8 事前の教員研修と指導の概要

## (1) 事前の教員研修（実施の時期については、「(2) 指導の概要」の中に明記）

研修内容	
a	日々の生徒の携帯電話やインターネットの利用状況を把握する。 ・生徒指導上でのトラブルについての情報交換。 中学生の携帯電話の利用に関する新聞等によるニュースに関心をもつ。
b	教師自身が携帯電話のメールやインターネット上の書き込みの体験をとおして、その問題点を理解する。
c	自分を大切にしながら生きていくためのアサーショントレーニングをする。
d	保護者との懇談会等の話し合いで、情報交換を行う。

## (2) 指導の概要（全5時間）

内 容	
事前	携帯電話、インターネットに関する生徒アンケートを実施する。 教員研修 a
1次 (2時間)	携帯電話やインターネットの利便性と危険性 1 携帯電話やインターネットに関する生徒アンケートから見えるものを考える。 学校生活で起こりうるメールによるトラブルについて学ぶ。(1時間) 2 携帯電話のメールや掲示板に書き込みすることが、人の心を傷つける行為となることを知り、そのときの被害者と加害者の心理を理解するとともに、携帯電話の利用面での特異性を考え、正しい携帯電話の使い方を学習する。(1時間) 教員研修 a、b
2次 (1時間)	<u>メールやインターネットの人権</u> フレーミングの疑似体験 インターネットにおける文章は、不用意な一言、思いやりのある一言、その一言の違いで「話が強調されてしまう」ことになることに気づかせる。(1時間) 指導実践 p35～p37 教員研修 b
3次 (1時間)	「携帯電話の危険性について」講演 専門家からの「携帯電話の危険性について」講演を聞く。(1時間) 指導実践 p37～p39 教員研修 c
4次 (1時間)	<u>アサーショントレーニング</u> 相手の立場や心情を理解すること、自分の思いを伝えることの大切さを学ぶ。(1時間) 教員研修 d
事後	自分の心の動きを振り返る。 保護者との懇談会で話し合う。

## 9 指導実践

## 2次 メールやインターネットの人権

## (1) 第1時

## ア 本時のねらい

フレーミングの疑似体験をすることによってインターネットにおける文章について考えるとともに、不用意な一言、思いやりのある一言、その一言の違いで「話が強調されてしまう」ことになることに気づく。（フレーミングとは、ネットワーク上で相手が激高するよう挑発したり侮辱するようなメッセージを掲示板等へ書き込んだりすること。またはそのような文章が原因で発生するネットワーク上の「けんか」のこと。）

## イ 指導のポイント

## (ア) 感動の体験

メールのやり取りの楽しさを体験させる。

## (イ) 感性を育む

不用意な一言、思いやりのある一言、その一言の違いで「話が強調されてしまう」ことに体験をとおして気づかせる。

## (ウ) 想像力の育成

インターネットでは相手の顔が見えず、簡単にフレーム合戦が起こることを理解させる。

## ウ 準備物 ワークシート

## エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 3～4人程度のグループ及び各グループのリーダーを作る。リーダーは教師の指示に従い、書き込みをしたり、グループの話し合いをまとめたりする。

(イ) 授業がスムーズに流れるように教員同士でフレーミングの研修を実施する。

## オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 前時の携帯電話やインターネットの利便性と危険性について振り返る。 ・本時の目的を確認する。	・何気ない言葉の使い方によって自他に大きな影響を及ぼすことを思い出す。
展 開	2 フレーミングの準備をする。 ・3～4人程度のグループを作る。 *各グループのBさんは、教室の前や廊下に集まり、教師の指示を受ける。  3 1枚目のワークシートに順番にB、C、D・・・が書き込みをする。（書き込み1） ただし、Bさんは教師の指示に従って書き込みをする。（好意的）  4 2枚目のワークシートに順番にB、C、D・・・が書き込みをする。（書き込み2） ただし、Bさんは教師の指示に従って書き込みをする。（悪意的） *書き込みをしているときは、できるだけ話をせず、お互いの顔を見ないことを確認する。	・適切なグループを作れるように支援する。  ・各グループのBさんを集め、1枚目のワークシートには さんを「好意的に考える立場」に立って、2枚目のワークシートには、「好意的に考えない（悪意的）立場」に立って、それぞれ書き込みをするように指示する。  ・インターネットの世界では相手の顔が見えず、表情や口調が伝わらないため、簡単にフレーム合戦が起こることに気づかせる。

	<p>5 書き込みの内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪口を書いた人は、どのような気持ちで書いたかや、悪口が書かれているときにどのように感じたかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が体験をとおして感じたことを話し合える雰囲気を作る。</li> </ul>						
	<p>Bの好意的な場合と悪意的な場合とで、話がどう変わったか</p>							
	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">好意的</td> <td style="width: 33%;">あまり過激にならない</td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td>悪意的</td> <td>どんどん過激になる</td> <td>など</td> </tr> </table>	好意的	あまり過激にならない		悪意的	どんどん過激になる	など	
好意的	あまり過激にならない							
悪意的	どんどん過激になる	など						
<p>まとめ</p>	<p>6 授業の感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不用意な一言、思いやりのある一言、その一言の違いで「話が強調されてしまう」ことに気づく。</li> <li>「メールでは感情が分かりにくい。」</li> <li>「冗談も、文字で表すと冗談とは受け取れないときがある。」</li> <li>「普通に会話する中で、言いにくいことがメールや掲示板で書ける。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近に不愉快な思いをしたり、困ったことやトラブルが起きたりと問題があることを押さえる。</li> <li>・いろいろな人たちの立場になって考えることの大切さを知らせる。</li> <li>・個人情報や誤った情報をのせてはいけないことを押さえる。</li> </ul>						

カ 生徒の振り返り

気づき

- ・一番最初の人が出たことがちがうだけで、みんなが書いている内容がちがった。
- ・話を前向きな方向にするのは、難しかったけど、マイナスな考え方にはみんなとても同調してくれた。
- ・言葉が少しでも違っていると人って傷ついたり、逆に自分が傷ついていることが分かりました。
- ・悪意的に書くと周りの人もって、悪い方へ話が進む。
- ・好意的な人が、悪意的な言葉で悪意的になった。
- ・好意的が多かったが、最終的に説得されて悪意的に変わった。
- ・好意的な書き込みがあるときは、自分もよい気持ちになれるけど、悪意的な書き込みがある時は、自分もいやな気持ちになる。
- ・人にあわせているということは、その人は本心を言えなくなってしまうことがあるんだなあと思いました。
- ・みんなのこの一言だけで長く話がつづいている。自分の意見を通すのは難しいと少し思った。
- ・好意的な書き込みがあっても、少しマイナスな方向に話がいって、悪意的な書き込みがあると、すごくマイナス方向に話がいって。

その時の気持ち

- ・一枚目はみんな頑張ろうという気持ちになった。2枚目はみんなが何のためにやっているのだろうか、まだやらなくていいやんという気持ちになった。
- ・書いた人はばれないから何を書いてもいいやんという気持ちになった。
- ・「話を合わせなきゃ！」という気持ちや、同調してほしいという気持ちだった。
- ・自分は傷つき、嫌な気持ちになる。こんな書き込みをするなと思う。
- ・書かないと駄目かなと思う。友達との関係を悪くしたくない。
- ・やり返してやろうと思う。
- ・悪意的なことを書かれた人は、誰が書いたか分からないから不安だと思った。
- ・好意的な書き込みでは、自分と同じことを思っている人がいると心強い。悪意的な書き込みでは、あきらめている。

これからの生活では

- ・自分はケータイやパソコンでメールとかはしていないけれど、これからメールをするときは、言葉などに気をつけていきたい。
- ・プラスに書いてもマイナスに書いてもマイナスになってしまったが、人は同調をすぐにしてしまいやすいから人とあわせることも大切だけど、自分の意見をいうことも大切だと思った。
- ・いじめにならないようにしたい。

キ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 指示を出す生徒は、しっかりと指示できる者をあげるとよい。また、4人グループはバランスを見て分けることが大切である。
- (イ) 静かな中で、書き込み体験ができるようにする。
- (ウ) 書き込みをしやすい雰囲気をつくる。ただし、ふざけすぎないように気をつける。



各グループのBさんへ指示



書き込みをしている様子



書き込み体験後の話し合い

4次

「アサーショントレーニング」

(2) 第1時

ア 本時のねらい

思いやりの心をもって対立を乗り越える学習をとおして、お互いに認め合い一人一人の人権をより一層尊重する集団を作る。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

相手の立場や心情を考えながら自分の考えも伝えて生活することによって、みんなが気持ちよく生活できることを、体験をとおして学習することができる。

(イ) 感性を育む

相手の立場や心情を理解すること、自分の思いを伝えることの大切さを理解することができる。また、言葉の表現方法の大切さを学ぶことができる。

(ウ) 想像力の育成

実生活でどのようなことが起こりうるかを想像しながらロールプレイをすることができる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) ロールプレイを行う班などのグループを決める。

(イ) ふだんの学校生活の中で生徒が不満を感じやすいロールプレイの場面設定を行う。

(ウ) 授業がスムーズに流れるように、教員同士でアサーショントレーニングの研修を実施する。

(イ) アサーション度チェックシートの内容の確認をする。

## オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<p>1 情報モラルの学習をとおして人権について考えてきたことや、ふだんの生活や行事等でクラス・学年で仲間づくりをしてきたことを振り返る。 協力、友情、けんか、誹謗、中傷・・・</p> <p>・アサーション度チェックシートをする。 「はい」10以上が「普通」。 「いいえ」が多いと、自己主張が苦手。</p>	<p>・相手の立場やその時の状況になって考えること、思いやりの心をもってお互いに認め合い、一人一人の人権を尊重することの大切さを考えさせる。</p> <p>・アサーションについて関心をもたせる。</p>
展 開	<p>2 アサーショントレーニングについて理解する。 (プリント1)</p> <p><b>A</b>受け身的、<b>B</b>攻撃的 何の解決にもならない</p> <p><b>C</b>主体的 相手の立場や心情を考えながらも自分を伝えて相手を説得してさわやかに問題を解決する。 (人間関係を崩さずに自分の思いを伝える)</p> <p>二人組になってアサーショントレーニングをしよう！</p>	<p>・対立を解決するための伝え方を学ぶということを押さえる。</p> <p>・知的判断、状況判断が必要であることにふれる。</p>
	<p>3 二人組になってアサーショントレーニングを体験する。(プリント2)</p> <p>プリントに従い、予想されるセリフを考え、ロールプレイをする。</p> <p>4 ロールプレイの振り返りをする。 プリントに記入する。</p> <p>5 いろいろな場面でトレーニングをする。(班別) (プリント3)</p> <p>3つの状況を考えさせ、アサーティブな対応を考える。</p>	<p>・実生活で考えられるような状況を考える。</p> <p>・話の中でのやりとりだけでなく、メールや掲示板で用いる言葉でも相手の立場や心情を考えながら人権を尊重して相手に伝わるようにすることが大切であることを押さえる。</p> <p>・生徒の活動の様子を見て、活動がスムーズに進むように支援する。</p>
ま と め	<p>6 授業の感想を話し合う。 ・みんなの意見を発表させ、まとめる。</p>	<p>・人生の中では、攻撃的、受け身的な伝え方も必要な時があることを押さえる。(大きな人生の問題に直面した時など)</p>

## カ 生徒の振り返り

## 気づき

- ・メールだけでなく、ふだんの生活でも言葉を間違えるとトラブルになるということが分かった。
- ・ふだんは、ほぼ受身的で、自分の気持ちがあまり話せなかったけど、体験授業を受けてどうやったら主体的になるのかが分かってよかったです。
- ・アサーション度チェックでは、受身的だったので、当たってるなあと思いました。
- ・実際やってみると、思いもよらず受身的になっていたことが分かった。

## その時の気持ち

- ・自分の気持ちを我慢しすぎると、辛くなってパンクしちゃうし、押し付けると人を傷つけてしまうから、上手に自分の心を伝えるのは難しいと思った。でも「つながり」について、とっても大事なことだと思った。
- ・もし自分が何か言ったときに、攻撃的な対応をとられたら、すごくいやだなあと思いました。攻撃的な発言をしないで、アサーションのように出来たらいいなあと思いました。
- ・楽しかった。前向きな自分は嫌だった。自分にあってなかった。
- ・言いたいことは言うけど、相手を傷つけないようにするということは、簡単そうで意外と難しいものだと痛感しました。
- ・アサーティブな対応が出来ると良いが、実際には難しいこともあると思う。

## これからの生活では

- ・やってみて、僕は誰に対してもアサーティブな対応が出来ているわけではないなと思いましたが。受身的になったり攻撃的になってしまったりすることがあるなと思いました。だから、これから、はどの人ともアサーティブに近い対応になるように頑張っていきたい。
- ・自分は、いつも思ったことがあったらその時に相手に言うし、友達には、何かあったらいつでもすぐ言ってねって頼んでいるから、ためこんだりして関係がおかしくなることはないです。でも、あんまり仲良くない子は、私の言葉とかに傷ついたり、すぐためこんだりしているのかなあとと思うと、自分の言う事に気をつけないといけないと思いました。
- ・私は、完璧に受身的な方です。でも、軽くでも言わなきゃだめなときはちゃんと言わなきゃ、私はずっといやな気になるんだなと思っていました。この授業でどういう言い方をしたらいいかも学んだので、これからは自分の意見も言わなきゃな、と思いました。
- ・私は3つの立場の中で、想像した人がどれにもいたけれど、人によって態度を変えるのはよくないなあと思いました。だから、これからは主体的になれるようにしたいです。
- ・僕は、受け身的なタイプだったけど、アサーションの体験授業を受けて、主体的なタイプになりたいと思いました。なぜなら僕は、いやなことを友達にされても、それを「まあ別に気にしていないけど」と言っているから、少し優しく注意していきたいと思しました。

## キ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 2人組のロールプレイは意外と時間がかかるので、ロールプレイの問題数を押さえて、班での活動時間を確保するとよい。
- (イ) とても活気ある授業になった。生徒は、本来、アサーティブな対応をあまりしていないこともあるので、事前の準備を十分に行う必要がある。
- (ウ) ロールプレイの問題については、色々な考え方ができるものを扱っても良かったのではないかと思われる。

## 10 実践を終えて

## (1) 先生の振り返り

事前のアンケート結果から、携帯電話やインターネットの利用が多く、多様化していることがわかった。さらに、1日に4時間以上携帯電話を利用したり、1日に30回以上メールする生徒がいたり予想以上に生活の中に携帯電話が入り込んでいる。メールや掲示板でのトラブルに巻き込まれた生徒もいるため、本授業への生徒の関心も高かった。

普通に会話する中で、言いにくいことがメールや掲示板で書けることや、メールや掲示板ぐらいだったら、友達が悪口を書いてもいいかなという軽い気持ちがあるということ、メールでは感情が分かりにくいこと、冗談も文字で表すと冗談とは受け取れないときがあることなど、メールや掲示板における文字の恐ろしさを疑似体験をとおして理解できたと考える。

また、生徒はふだんアサーティブな対応を考えることがあまりない。本実践により、相手の立場や心情を理解すること、自分の思いを伝えることの大切さを、アサーショントレーニングをとおして学習できたと思う。

フレーミングやアサーショントレーニングでは、子どもの活動が主となっており、子どもたちも生き生きと授業に参加できる内容だった。生徒たちに目標を理解させやすい展開だった。

## (2) 今後の課題

### ア 授業実践上の課題

教室でのパソコンを使わない、ワークシートによる書き込みの疑似体験や、身近なテーマについてのアサーショントレーニングを行った。実践後の生徒の感想より、メールなどの文字や、会話における話し言葉などにおいて、正しく情報を判断し、相手の立場や心情を考えながら相手に伝わるようにすることの大切さに気づかせることができたと思う。

今後、実際の生活の中で、文字や言葉を大切にしてコミュニケーションできるかどうかについては、日々の生活の中で繰り返し考えさせる必要がある。

### イ 家庭・地域との連携についての課題

個人懇談会や、保護者会、地区懇談会等で携帯電話やインターネットの利用について話題になることが多く、保護者の問題意識も高い。また、家庭によって、携帯電話やインターネットの利用状況が大きく異なると考えられる。特にそれらの生徒の利用が自由な家庭においては、家庭間で利用の共通理解が必要である。そのためにも学校における家庭や地域との連携が必要である。

また、学校での学習内容を各家庭に伝え、家庭とともに、メールなどの文字や、会話における話し言葉などによるコミュニケーションの難しさ、大切さを子どもたちに伝えていくことが大切である。

### ウ 学校の組織運営上の課題

本プログラムのための授業時間の確保が必要である。学年だけではなく、学校全体で授業時間を作ることが大切である。道徳、総合的な学習の時間等を活用したが、1年間を見通した計画を立てる必要がある。

## 11 参考・引用文献

- ・情報モラルに関するビデオ NTTドコモ 『ケータイ安全教室』（DVD） 2008
- ・情報モラル読み物資料 光村図書 中学道徳「きみがいちばんひかるとき」「だれ？」 2009
- ・兵庫県人権教育推進委員会 『地域における人権教育の推進をめざして ライフステージに応じた参加体験型 人権学習実践事例集』 「フレーミング」 2008
- ・兵庫県人権教育研究協議会 『じんけんスキルブック』 「アサーショントレーニング」 2004
- ・アサーション度チェックシート 平木典子 『アサーショントレーニング』 日本精神技術研究所 1993

グループ用ワークシート（3人用）

フレーミングについて考えよう その一言でこんなに違う！

（ ）組 メンバー（ ）

A : 勉強ってしんどい！

B :

C :

D :

B :

C :

D :

## ワークシート

フレーミングについて考えよう その一言でこんなに違う！

( )組 ( )番 氏名( )

- 1 前回の授業を思い出して書いてみましょう。

- 2 3～4人のグループを作り、フレーミングの役割分担をしましょう。

B ( )、C ( )、D ( )  
E ( )

- 3 2枚のワークシートに順番に書き込みをしていきましょう。また、書き込みをするときは、周りの人と話をしないようにし、お互いの顔も見たりしないようにして行いましょう。（人数が多いときは、グループ用ワークシートの空欄を順に書き込む。）

- 4 1枚目と2枚目のワークシートを比較して、グループごとに話し合いをし、気づいたことをまとめましょう。

- 5 悪意的に書いた人は、どのような気持ちで書くのか、また、悪意的に書かれているときにどのように感じたかをそれぞれの立場になって考えてみましょう。

- 6 好意的な書き込みがある場合と悪意的な書き込みがある場合とで、話がどう変わったかをグループごとに話し合ってみましょう。

- 7 今回の授業を通して、感じたことを書きましょう。

# 「情報化社会に生きる」

（ ）組（ ）番 氏名（ ）

現在、携帯電話やパソコンは大変普及しており、生活の中でなくてはならないものになっています。しかし、それらの使い方によっては、便利なものとなると同時に危険なものともなります。これからの道徳の授業では、インターネットの基本的な仕組みやそれを悪用した犯罪や人権を侵害しない知識を身につけ、いろいろな情報を扱う際に正しい判断を持って行動できるように考え、責任ある言動とはどういうことかをみんなで考えていきます。

1 資料「だれ？」の範読をききましょう。

恵子は千佳とメールを終えたとき、どんな気持ちだったでしょうか。

恵子はどんな気持ちから「見たと言っている人がだれなのか、分かっていないじゃない。」といったのでしょうか。

あなたが恵子だったら、この後どのような行動をとるでしょうか。

2 ビデオ「加害者にならないためには？」をみましょう。

2つのドラマで、それぞれ登場人物のどこに問題があったでしょうか。

前半	後半
----	----

どうすれば防げたでしょうか。

前半	後半
----	----

もし自分だったら、どのようにしますか。

前半	後半
----	----

3 授業を終えての感想を書きましょう。